

湖国の恩師、祝福の声

女子2000個人メドレーで銀メダルを獲得し、表彰式で笑顔の大橋悠依（フタバエスト共同）



出||が銀メダルを獲得した。日本記録を更新しての快挙に、湖国の関係者から喜びの声が上がった。

小学3年時から約10年間、彦根イトマンで指導した奥谷直史さん（49）||草津イトマン所長||は「やっつけてくれると思っていたが、想像以上のタイムでびっくり。発言が力強く、精神的な成長を感じた」と声を弾ませた。幼少期から「パワー」じゃなく技術で泳ぐ選手で、少ないストローク

度、学校でも練習していた。水泳部顧問だった福岡恵美子さん（58）||守山高教諭||は「明るく前向きで、常に目標を持っていった」と振り返る。東洋大1年時に再会した際は貧血にも悩んでいたというが、「苦しい時期を乗り越えてよく頑張った」とたたえた。

30日（現地時間）には得

意の400個人メドレーが控える。奥谷さんは「思い切り楽しみ、笑顔で終わってほしい」、福岡さんは「力を出せれば表彰台の一番高い所も狙える」と期待した。（上坂恭平）

「次もメダル取って」

世界水泳銀の大橋選手



岩手県体に出場した大橋選手＝県競技力向上対策本部提供

世界選手権水泳の女イットマンズスイミングス子2000個人メドレー「クール」で小学三年から大橋悠依選手（こ）ら指導した奥谷直史さん||東洋大||が銀メダル（こ）||草津イトマンに輝き、出身地の彦根 フィットネスクラブ||市では、指導者からは、二人三脚で歩んで喜びの声が挙がった。きた。銀メダル獲得に大橋選手が六歳から LINE（ライン）で高校卒業まで通って「おめでとう」と伝え、同市古沢町の「彦根」といい、「積極性が

出身地 彦根の関係者 喜びの声

見られ、最後まで泳ぎ切れていた。400個人メドレーでは、平常心を持って臨んでほしい」と呼び掛けた。

三歳から入会し、一緒に泳いだことがあるという米原高校二年の小田柿那洋さん（こ）は「努力家で、憧れの先輩だった。次もメダルを取ってほしい」とエールを送った。

所長の高和雅さん（こ）は「こに通う子どもたちの励みになった。次は金メダルを目指してほしい」と期待していた。（木造康博）

まったと発表した。県あり、六百五十七の案が寄せられた。件数が多かった順に「うみのこ」九十五件、「びわのこ」六十七件、「びわのこ」六十一件、「うみのこ」五十六件、「お」三十四件だ。「うみのこ」に決



「うみのこ」のイン＝県教委提供

「将来にわたって県民に親しまれるか」などの観点で「うみのこ」「うみのこ」「うみのこ」の二の二点に絞り込み、三日月知事が「うみのこ」に決